

令和８年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立敷津小学校の結果概要

本年度の平均正答率は、国語科、算数科において全国平均よりも下回る結果となった。

国語科では、特に「書くこと」の項目において、全国平均を大きく下回る結果となった。「読むこと」の項目においては、全国平均に近づきつつある。

算数科では、特に「測定」の項目において、全国平均を大きく下回る結果となったが、「数と計算」「変化と関係」の項目においては、全国平均を上回る結果となっている。

児童質問紙では、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「友達関係に満足していますか」の項目では、肯定的な回答の割合が１００％であった。学校全体での取組や道徳科の授業、特別活動の時間を通して、友だちの気持ちを大切にしたり、子どもたち同士が互いに協力したりする場を設定してきた結果であるといえる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】

国語科では、全ての項目において全国平均を下回る結果となった。記述式の問題に関しては、無回答率が高い。正答率が最も低かったのは、文章から引用して、自分の考えが伝わるように書き方を工夫する問題であった。また、正答率が１００％であったのは、漢字を使って書き直す問題であった。

問題の意図を読み取る力などの読解力の向上を図るためには、他者の考えを理解するとともに、根拠を持って自分の考えを伝える力が必要である。文章に触れる機会を増やししながら、筆者の伝えたいことを考えるような場を設定したり、繰り返し使われている言葉から要旨をまとめたりする活動が重要である。

【算数】

算数科では、「図形」「測定」「データの活用」の項目において全国平均を下回る結果となった。最も正答率が低かったのは、二次元の表から、条件に合う数を読み取る問題であった。

また、正答率が１００％であったのは、３枚のカードを当てはめてつくることができる最も大きい数を書く問題であった。また、どちらの方が大きい分数かを判断し、その理由を書く問題は、正答率が、全国、大阪府よりも大幅に上回っていた。

引き続き、基礎基本の定着を図るとともに、デジタル教材を活用しながら、子どもの習熟に応じた学習指導を行っていく。

質問調査より

「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の項目については、肯定的な回答の割合が１００％であった。子どもたち一人ひとりが自信をもって発言できるよう、お互いを認め合いながら、どんな意見も受け入れられるような雰囲気を構築していくための集団育成を図ってきた結果である。

「自分には、よいところがあると思いますか」の項目について、肯定的な回答の割合は９０％であり、全国、大阪府に比べて上回っている。

今後の取組（アクションプラン）

本校では、話し合い活動を軸とした教科指導を進めている。子どもたち同士で説明したり、意見や考えを伝えたりすることにより、自分の理解を深め、さらに自己肯定感を高めることにもつながる。知識の習得だけではなく、子どもたちが主体性を発揮し、協働していく取組を継続して進めていく。

また、学級生活における課題や問題点を自分事として捉え、みんなで話し合ったり、考えたりすることで、子どもたち自身が自分たちの力で、学級をよりよいものへ変えることができるという見方や考え方を育成していく。これからも、話し合い活動を中心とする授業展開を工夫していくとともに、国籍の違いや障がいのあるなしに関わらず、互いの違いやよさを認め合い、全ての子どもたちが自分らしく自信をもって未来を切り拓いていけるような取組を推進していく。